カリキュラム・マネジメント　チェックシート

日々の教育活動でカリキュラム・マネジメントを意識できているか、チェックシートで振り返ってみましょう。

＜年間を通して＞　　4. 当てはまる　3. やや当てはまる　2. あまり当てはまらない　1. 当てはまらない

番号	項　　目	チェック			
1	児童生徒の実態を理解している。	4	3	2	1
2	地域の実態を理解している。	4	3	2	1
3	学校の教育目標、目指す児童生徒像を理解している。	4	3	2	1
4	学校の教育目標、目指す児童生徒像を保護者に発信している。	4	3	2	1
5	学校の教育目標、目指す児童生徒像を意識して、教育活動を行っている。	4	3	2	1
6	他教科等の関連を意識して、授業を行っている。	4	3	2	1
7	現職教育の研究主題を意識して、日々の授業改善に取り組んでいる。	4	3	2	1
8	全国学力・学習状況調査やふくしま学力調査等の分析結果を、授業改善に生かしている。	4	3	2	1
9	教育課程の編成、実施、評価及び改善に関わっている。	4	3	2	1
10	業務の改善や効率化を意識している。	4	3	2	1
11	地域の教育資源（人材や施設、環境等）を、効果的に活用している。	4	3	2	1
12	学年や教科の枠を越えて、教職員同士で連携・協力している。	4	3	2	1
13	専門スタッフ（司書や支援員、SC 等）と連携・協力している。	4	3	2	1

＜次年度の教育課程編成に向けて＞

14	教科等横断的な視点に立って、教育課程を編成した。	4	3	2	1
15	保護者や地域の意見や考えを生かしている。	4	3	2	1
16	学校評価の結果を生かしている。	4	3	2	1
17	教育活動の反省や振り返りを生かしている。	4	3	2	1
18	地域の教育資源（人材や施設、環境等）の活用について、見直しを行っている。	4	3	2	1

「地域と共にある学校」を目指して

新しい時代に求められる資質・能力を、子供たちに育んでいくために、地域の力を大いに活用しましょう。学校のホームページやＰＴＡ総会等、様々な機会を通して、保護者や地域の方々へ学校の取組を発信していきましょう。

学校にとっての効果

・「生きる力」の育成
・社会性の育成
・授業内容の充実
・多忙化解消

教育目標の共有
連携・協働

地域にとっての効果

・地域の教育力の向上
・地域コミュニティの活性化
・地域住民の生きがいづくりや自己実現

学校と地域が一体となって、子供たちを育てていきましょう。

再生紙を使用しています。

問い合わせ
福島県教育センター　調査研究チーム
TEL 024-572-4182
メールアドレス center-chosa-gr@fcs.ed.jp

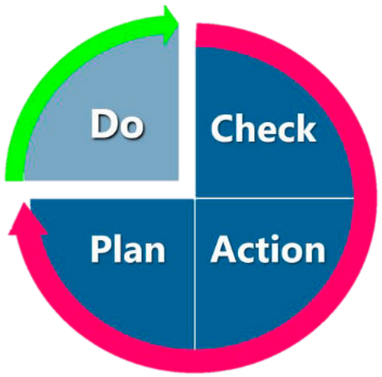
保存版

児童生徒の資質・能力を育む GUIDE カリキュラム・マネジメント

カリキュラム・マネジメントとは、「学校教育に関わる様々な取組を、教育課程を中心に据えながら組織的かつ計画的に実施し、教育活動の質の向上につなげていくこと」です。

カリキュラム・マネジメントに取り組むことで、教育目標が具体的で身近なものになります。

このリーフレットでは、２つの研究協力校の実践を基に、カリキュラム・マネジメント推進の在り方を提案しています。



【４つの提案】

○みんなで同じ目標に向かって進んでいこう
○たくさんの意見を交流し、意識を共有していこう
○一人一人の力を集結し、目標を実現しよう
○今の取組を、次の教育課程に生かしていこう

「実践しながら教育課程を改善していく」
「みんなで学校を創り上げていく」

令和４年３月　福島県教育センター

カリキュラム・マネジメント ４つの提案

1　みんなで同じ目標に向かって進んでいこう
～目標をしぼって“一点突破”～

大切なのは、「これだけは育みたい」という重点目標が明らかであること。そして、それがすべての教職員で共有されていること。目標をしぼって“一点突破”で進めていきましょう。

伊達市立堰本小学校

教育目標を受け、先生方が全員で話し合い、重点目標を「心も体もたくましい子どもの育成」としました。これが、堰本小学校の“一点突破”です。

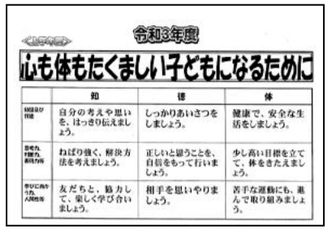
そこから、先生方が「知」「徳」「体」の3つの部会に分かれ、「育みたい資質・能力」を基に、それぞれの視点から子供の姿を具体化し、全員で共有しました（評価規準）。

また、それらを表にまとめ、目に付きやすい場所に掲示したり、学級で繰り返し話をしたりすることで、重点目標を子供たちにも意識させていきました。

さらに、保護者も同じ目標に向かって同じ意識で取り組めるよう、校長先生から学校の取組について説明をしました。それにより、学校で目指す子供の姿を共有することができ、学校でも家庭でも、常に目標を意識しながら、様々な活動に取り組むことができました。

目標を一つにしぼり、教職員も児童も保護者も、みんなでその目標を共有します。

<評価規準>



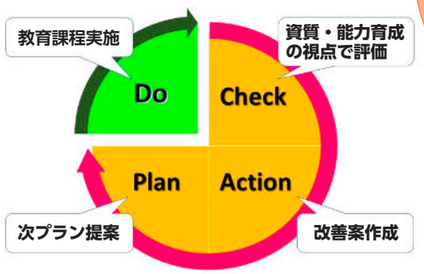
<児童配布用>

<PTA総会で保護者に説明>

2　たくさんの意見を交流し、意識を共有していこう
～実態に合わせた“マネジメントサイクル”～

マネジメントサイクルの一つとして、「D-CAPサイクル」を提案します。教育活動実施（D）後の、評価（C）、改善（A）、計画（P）を、「CAP」というひとまとまりで捉え、一気にCAPを行うことで、反省をすぐに次の計画に生かすことができます。

評価（C）をする際の視点は、学校として育みたい資質・能力です。



伊達市立堰本小学校

◆教育活動全般における「D−CAP」◆

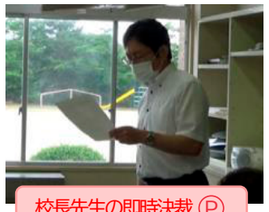
Ⓓ　朝のマラソン練習

「心も体もたくましい子どもの育成」の視点で

Ⓒ　開始時刻より早く来ている児童がいる。待ち時間が増え意欲を削ぐことになっている。

Ⓐ　意欲が持続できるように、なるべく早く開始させたい。

Ⓟ　児童が校庭に出てきたら、すぐに走ってもよいことにする。


校長先生の即時決裁 Ⓟ

先生方から出された改善案を、校長先生が即時決裁し、その場で次の計画ができました。

伊達市立梁川中学校

◆行事における「D−CAP」◆

Ⓓ　第１回目の避難訓練

「自ら考え、自ら判断し、責任をもって行動する生徒の育成」の視点で

Ⓒ　事前指導で生徒たちがしっかり活動できたが、「自分で考えて行動する」ことになっていない。

Ⓐ　教師がいない場面を設定し、生徒たちに判断、行動させたい。

Ⓟ　第２回目は、予告なしで避難訓練を行う。

視点を明確にした話合い ⒸⒶ

第2回目の避難訓練では、教師のいない場面を設定しました。初めは戸惑う様子もありましたが、生徒が自分たちで判断し、自主的に避難する姿が見られました。

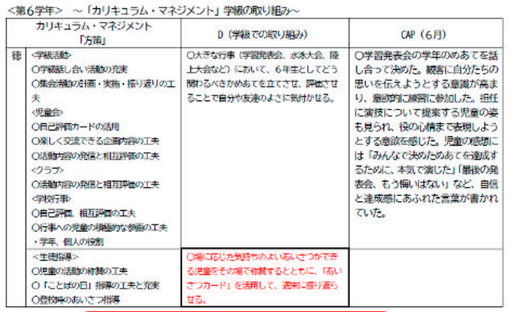
3　一人一人の力を集結し、目標を実現しよう
～個人で取り組む“「小さなカリ・マネ」”～

カリキュラム・マネジメントは、先生方全員が主役です。一人一人が、学級（学年）経営や教科指導を軸にしたマネジメントサイクル（「小さなカリ・マネ」）を回すことで、学校のカリキュラム・マネジメントが推進されます。

伊達市立堰本小学校

◆学級経営を軸にしたカリキュラム・マネジメント◆

学校として育みたい資質・能力の中から、自分の学級の実態に応じて取り組むことを考え、より具体的な学級プランを作成して実践しました。堰本小学校では、定期的にCAPの話合いを行い、そこで共有された取組を基に学級プランを見直しました。


<第6学年>　～「カリキュラム・マネジメント」学級の取り組み～

	カリキュラム・マネジメント「方策」	D（学級での取り組み）	CAP（6月）
徳	<学級活動> ○学級話し合い活動の充実 ○集会活動の計画・実施・振り返りの工夫 <児童会> ○自己評価カードの活用 ○楽しく交流できる企画内容の工夫 ○活動内容の発信と相互評価の工夫 <クラブ> ○活動内容の発信と相互評価の工夫 <学校行事> ○自己評価、相互評価の工夫 ○行事への児童の積極的な参画の工夫 ・学年、個人の役割	○大きな行事（学習発表会、水泳大会、陸上大会など）において、6年生としてどう関わるべきかめあてを立てさせ、評価させることで自分や友達のよさに気付かせる。	○学習発表会の学年のめあてを話し合って決めた。観客に自分たちの思いを伝えようとする意識が高まり、意欲的に練習に参加した。担任に演技について提案する児童の姿も見られ、役の心情まで表現しようとする意欲を感じた。児童の感想には「みんなで決めためあてを達成するために、本気で演じた」「最後の発表会、もう悔いはない」など、自信と達成感にあふれた言葉が書かれていた。
	<生活指導> ○児童の活動の枠組の工夫 ○「ことばの日」指導の工夫と充実 ○登校時のあいさつ指導	○場に応じた気持ちのよいあいさつができる児童をその場で称賛するとともに、「あいさつカード」を活用して、適時に振り返らせる。	

ほかの学年の取組を受けて、新たに追加しました。

例えば、６年生では、CAPの話合いの際に共有したほかの学年の実践を受けて、「あいさつカード」を使った取組を、自分の学級の実態に合わせてアレンジし、学級プランに取り入れました。

伊達市立梁川中学校

◆教科指導を軸にしたカリキュラム・マネジメント◆

教科ごとに「教科で目指す生徒の姿」について話し合い、具体的な生徒の姿を明らかにしました。さらに、その生徒の姿を基に、先生方一人一人が「授業で目指す生徒の姿」と、その姿を引き出すための「手立てや工夫点」を明らかにして授業を行いました。

授業研究会では、全員が「目指す生徒の姿が具体化されたか」という視点で授業を参観し、教科の枠を越えて協議を行うことで、授業改善につなげることができました。

<要請訪問の分科会の様子>

～分科会での英語科の先生の自評から～

本時は、カリキュラム・マネジメントを意識し、目指す生徒像を明確にしました。それに近付けるような授業の展開を考えました。

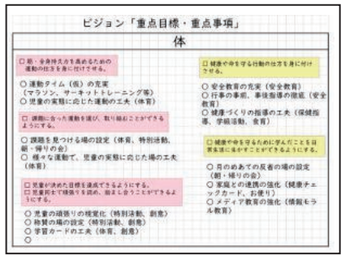
4　今の取組を、次の教育課程に生かしていこう
～教育課程に直結する“見直しと改善の日常化”～

年間を通して、学校として育みたい資質・能力を意識したマネジメントサイクルを回していくことが大切です。ここでの見直しや改善を生かして、教育課程を編成していきましょう。日常的に行うことで、業務の改善や効率化にもつながります。

伊達市立堰本小学校

◆学校経営・運営ビジョンの作成◆

これまでの話合いや児童の意識調査を基に、先生方全員で学校経営・運営ビジョンの重点目標・重点事項の検討を行いました。重点目標の達成のために、どの場面で、どのような指導や教育活動を行うのかを明確にしたことで、評価もしやすくなりました。



<「体」部会の話合い>

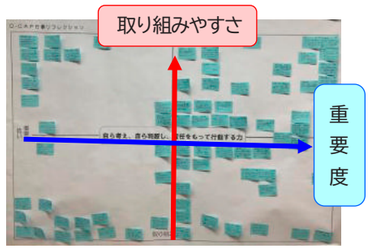
重点目標を達成するための、具体的な手立てについて、話し合いました。

伊達市立梁川中学校

◆「行事リフレクション」◆

先生方一人一人が、資質・能力の育成という視点で各行事を見直し、それらを「重要度」と「取り組みやすさ」で分類する「行事リフレクション」を行いました。

これを基に、次年度重点的に取り組む内容を決定していきました。



<資質・能力の育成の視点で行事を分類>

～堰本小学校　校長先生のお話から～

重点目標は、できるだけ具体的な表現で示すことにしました。なぜなら、重点目標を具体的に示さないと、取組を明確に表せないからです。ここが明確でないと、適切に評価することが難しくなります。